

関西広域連合 広域交通インフラの基本的な考え方

〇はじめに

広域交通インフラは、関西圏のもつ、優れた歴史・文化や人・モノ・情報といったポテンシャルを十分に発揮させ、関西圏域内はもとより、アジアや他の圏域との交流を活発にする基盤であり、双眼型・多極型の国土構築に必要な社会基盤でもある。

そのため、関西広域連合として、現状の課題や7分野の広域計画等（防災、観光・文化振興、産業振興、医療、環境保全、資格試験・免許等、職員研修）を踏まえ、アジアの国際物流圏・次世代産業圏を担う広域関西を実現するために、必要なインフラのあり方や基本的な考え方を整理し、共通認識を持つことが必要である。

〇基本的な考え方の骨子

1 関西大都市圏の実現

(1) 関西大環状道路と放射状道路及び鉄道網等の形成により、関西都市圏を拡充

(2) 関西3時間圏域の実現

- ・ 空の玄関（関西国際空港）から、3時間以内でアクセス可能なインフラ
- ・ 陸の玄関（新大阪）から、3時間以内でアクセス可能なインフラ
- ・ 海の玄関（阪神港、舞鶴港、境港、姫路港等）から3時間以内でアクセス可能なインフラ

2 地域を総合的に活用できる最低限のインフラ

(1) 人が地域で安心して暮らすためのナショナルミニマムとして（医療・教育機会の平等と同様に）

(2) 経済活動の基本的なチャンスの保障

- ・ 企業立地におけるチャンスの平等
- ・ ポテンシャルを活かした観光や農林水産業の発展
- ・ 高速道路渋滞区間、ミッシングリンクの解消による本来機能の発揮

3 大規模地震など自然災害等への備え

- ・ 大規模地震や風水害時の緊急輸送道路の確保
- ・ リダンダンシーの確保